

参加者報告書（一部抜粋）：宮田知子さん

1. 本プログラムで体験／経験したことはどのようなことですか？

- 1 ピアスタッフ交流会ではみかんぐみの運営者や会員の皆さん、そしてそれぞれ参加目的の違う看護師で開催されました。事前にメールでみかんぐみのYouTube動画をいただき、みかん組がどういった組織なのか、どういった目的で運営されているのか、会社の成り立ちまで確認しました。交流会では率直に自分の聞きたいことを答えていただき、みかんぐみの方からもどうしてその内容を知りたいのか、と私自身に興味をもって下さり、お互いが見えた時間でした。
- 2 訪問見学では実際の訪問看護介入の現場に同行しました。お子様と母、そして訪問看護師との関係性、関わりを目の当たりに感じることができました。お子様と母、家族、親戚との関係性、小学校入学に向けた社会環境、社会地域課題があり、不安や葛藤があるがそれ以上に希望、安心、承認、笑顔、優しさ等から前向きに行動されている姿を見学しました。訪問看護師は危ない時には声をかけますが基本的には優しく暖かく見守り母の意向を尊重しているのが印象的でした。

2. 上記を通じた学びはどのようなものでしたか？

成人も小児も、誠実な対応で訪問看護の実践というのは同じです。ただ小児は成長途中であること、発達段階の途中という特性があり未来に対する希望が大きいように感じました。私たち訪問看護師はベースでは専門職としての知識や技術が必須であり、そして小児分野の特性をしっかりと理解することで両親への安心へ繋がります。機械も違えばそれぞれのご家庭でのやり方も違う。それでも看護師としての基本ベースは大切だと改めて感じました。そして子供が好きな事。その上でご両親やお子様との関係性づくりが始まるのだと思いました。なぜ、小児訪問看護を始めたいと思ったのか。それはやはり地域で困っている一人でも多くの方の力になりたいと思ったからです。そのために今回の現場の声は私にとってとても意味のある研修プログラムでした。最先端の実際の現場の声を活かします。

3. 本プログラムに対する感想を自由に述べてください。

プログラムが始まった時には正直、ゴールがあまり見えていませんでした。その中でNfNの方がメールで細かく詳細に流れを定期的に送ってくださり、気が付くと大きな学びを習得していました。NfNの看護職に見学同行していただき、実際の訪問看護ステーションと小児訪問看護のお話も聞けて大変勉強になりました。私の力は微力ですが、小児専門チームとなる「私たち」を結成し、地域の笑顔と健康を支えられる存在になれたらと思います。そして小児看護が好きなスタッフにとっての輝ける場所作りは私の使命なのでは、と思い始めています。

4. 本プログラムで得られたものを今後どう活かしていけますか？

重症身体障害児や医療的ケア児に特化した小児の訪問看護チームを結成したいと考えています。現在の事業所も整えつつ、できることから進めていきます。小児の訪問看護チームは小児訪問看護の経験者、小児病棟で3年以上の経験者をベースに子供が好きな事、親や兄弟との信頼関係が築こうと努力できる看護師、丁寧な重症身体障害児や医療的ケア児ケアや対応ができる看護師の求人をかけます。時間はかかるかもしれませんが、せっかく立ち上げるのであれば安心を届けられるチームでないと意味がないと思うので妥協せず人選選びをしたいです。